



島田副会長



金井会長



第9回 総会・ 第18回 講演会報告

埼玉県摂食・嚥下研究会第9回理事会及び総会は平成25年7月28日(日)午前10時30分より彩の国すこやかプラザ2階研修室で行われた。

総会では議長に藤野理事が、副議長に清水充子理事が選出され、金井会長の挨拶の後、役員の選任、平成24年度の事業報告及び決算、平成25年度の事業計画及び予算の計5議案が審議され、すべて上程

し、原案どおり可決された。役員の選出の件では看護協会の熊本孝子会長、埼玉県介護支援専門員協会の野呂牧人理事長、埼玉県歯科医師会地域保健部の出浦恵子部員が、新たに理事に承認された。(詳細4頁)

埼玉県摂食・嚥下研究会だより

―高齢化時代のセーフティ・ライフを目指して―

vol.23

発行日

平成25年10月10日

発行者

埼玉県摂食・嚥下研究会

事務局

埼玉県浦和区針ヶ谷4-2-65

彩の国すこやかプラザ5F

埼玉県歯科医師会内

TEL 048-829-2323

講演Ⅰ「早期経口摂取開始の成果 とアプロロチの実際」

講師 東名厚木病院 摂食嚥下療法部部長、
NPO法人「口から食べる幸せを守る会」理事長、看護師

小山 珠美先生



院に勤務されている。

講演は、「早期経口摂取開始の成果とアプロロチの実際」と題して行われた。

まず、摂食・嚥下とは、「食べたい人にはなんとか口から食べられるよう、食べ続けられるように」との観点から経験を含めて講演した。

小山先生は、国立病院機構熊本医療センター付属看護学校、神奈川県立保健福祉大学実践教育センター1教員養成課程看護教員コース、放送大学大学院文化科学研究科環境システム科学群を卒業後、現在摂食嚥下療法部部長として社会医療法人社団三思会東名厚木病

看護師の職務とは、患者の自然治癒力を如何に促進できるかであり、スピード性を持って安全に結果を出すことを絶えず考えている。食べさせない看護は存在しない。食べさせることが看護の真髄と考えている。しかし代替栄養(非経口栄養)の発達で食べさせ

なくなってきた。人間にとって「口から食べる(食事)」ことは、人が人として幸せに生きるための大事な生命の根幹であり、我々は、食べる楽しみ、食べる喜び、食べる幸せ、美味しい笑顔、を患者と共有したいために頑張る。人としての幸せに生きる尊厳の源を自分自身の中に持つていないと、知識や技術だけではこの領域はやっていけない。

脳神経、自律神経系、身体活動などのバランス調整等が食べることによってうまくコントロールされていくため、専門家としては、食べることの意味を心身両面から細かい部分で考えていかなければならない。

《症例の紹介》

70歳代女性、左視床部出血、人工呼吸器管理、1週間後に気管切開、意識障害重度、失語症、開眼困難。食べることは一つの切り口であり、疾病、心身機能の改善等両面からのアプロロチがなければ良くならない。経口摂取訓練を発症3週目から開始して、5週目にはゼリー食となった。発症7週目には一部箸を使用しての食事となり回復期リハビリ病院へ転院となった。意識レベルが十分ではない時期からリスク管理下による経口摂取を開始することで、気管力ニューレも抜くことができた。現在外

(2面へ続く)

来で言語訓練を継続しているそうである。

小山先生は「我々はリスクを回避するだけでなく、リスクを減らし、リスクに立ち向かうスキルを自分自身が身につけることが肝要である。患者さんは、見通しのつかない我慢（経口摂取禁止）を強いられることにより心身のストレスを高め、廃用症候群は悪化し、食べる機能を奪い取られることにもなりかねない。食べるチャンスを与えるのも医療者、食べるチャンス奪うのも医療者である」と長期絶食を強いることへの警鐘を鳴らす。

急性期医療の要素は、キユーア、ケア、リハビリテーション、ディスタージ、QOLであり、患者は生命を助けて元の生活者に早く戻してという願いをもって入院治療を受けている。そのためにも、この急性期治療を乗り越えたら自分と同じ生活者だという認識をもつことが肝要である。特に、治療に伴うチューブ管理そのものが廃用症候群を作り易く、経口摂取開始の遅れは生活機能低下を招く。リスク管理（低栄養・脱水・誤嚥性肺炎・廃用症候群）を行いながら、早期経口摂取のステップアップを行う両輪を考えていかなければならない。

東名厚木病院での取り組みと実績の紹介として、「脳卒中急性期から始める早期経口摂取獲得を目

指した摂食・嚥下リハビリテーションプログラムの効果」（2012、4 日本摂食嚥下リハ学会誌掲載）について説明があった。また、先般関わったという症例の紹介があった。70歳代男性、胃切除後、誤嚥性肺炎を繰り返し人工呼吸器管理となり、2カ月間経口摂取なし。ICUより、「昨日スピーチカニューレに変更となったので、経口摂取のスタートを願いたい」との依頼があった。全身状態と嚥下のスクリーニング評価結果より、摂食・嚥下機能が良好と判断して、昼食にはゼリーに加えて、旬の桃をフレッシュジュースにして食欲をそそるような環境を作ったそうである。本人の笑顔だけでなく、同席した周囲のスタッフや家族から感嘆の声が響いた場面は、参加者にも感動が伝わってきた。

口から食べることを積極的に進めていくためには、生活者としての観点から、実践的スキル、多職種との連携、リーダーシップ、コミュニケーションスキル、そして情熱と行動が必要である。行動に移さねば何も変わらない。是非皆さんも明日から行動に移していただきたいとのメッセージだった。

7月12日にNHK NEWS WATCH 9において、「自分の口で食べたい！諦めないリハビリ」と題して、東名厚木病院にお

ける摂食嚥下療法部の取り組み、および「口から食べることを支援するNPO設立」が放映された。「リーダーの看護師、小山珠美さんです。

これまで多くの患者が、チューブで栄養をとる処置のあと、それに頼りつきりとなり、食べる力を失っていった姿を見てきました。チューブに頼るやり方を変えられないか。小山さんは、再び口から食べられるようにするためのリハビリを手探りで始めたといいます。

「食べなくても生きていける、食べなくても栄養が施されると、食べさせなくていいと思ってしまった。むしろ食べたいと願っていても、食べられる力があると思っても、食べることのリスクを並べ立てるような医療者が増えてきた。そこに問題を感じる。」

口から食べられるようにするために大切なのは、入院後すぐにリハビリを始めること。「食べる力は、どんどん失われていっているから、リハビリをするにしても、アプローチをするにしても、もつと時間がかかってしまう。急性期からやるのが、患者の健康を回復する力を促進する原動力になる」と。

井上キャスター

「小山さんは、医療や福祉の関係者と、口から食べることを支援するNPOを設立していて、明日（7月13日）に横浜で、関係者が一堂に集まる初めての全国大会が開かれます。」

大越キャスター

「病院やリハビリ施設で働く500人近くの医師や看護師などが参加するというのですが、口からおいしく食べるというのは、元気になる源ですよ。」

小山先生の少々辛口の講演の迫力に参加者は圧倒された。そして誰もが小山先生の技術や知識もさることながら、その陰にある医療関係者として求められる温かさ、優しさに心を打たれた。参加者は多くのお土産を持ち帰り、明日からのそれぞれの業務に役立たせている事と確信している。

急性期医療での生理的な栄養管理

無意味な絶食は止めよう！
不用意な食事の開始も止めよう！
不適切な食事の提供も止めよう！
未熟な食事介助も止めよう！

口や姿勢を整える
気道のクリアランスを良好に
正しい評価から強みやケア方法を見出す
早期経口摂取開始
早期離床
安全でQOLの高い食事と栄養を

Koyama tamami

世界約50カ国で愛用されているEBMに基づいた口腔ケア
バイオティン

口腔乾燥には **biotène**

- 唾液にも含まれる天然酵素
ラクトペルオキシダーゼ
グルコースオキシダーゼ
リゾチーム
- ラクトフェリン
- 保湿・潤滑成分
- キシリトール



唾液のチカラで健康と笑顔を



全米歯科医師・
歯科衛生士推奨
ドライマウスケア部門
No.1ブランド
※ROHほか



Recommended
by The Oral Cancer
Foundation
米国口腔がん財団 推奨製品



T&K ティーアンドケー株式会社 ☎フリーダイヤル 0120-555-350
東京都中央区日本橋堀留町1-5-7 TEL: 03-5640-0233 FAX: 03-5640-0232
URL: www.biotene-tk.co.jp E-Mail: info@biotene-tk.co.jp



講演Ⅱ「要介護高齢者が口から食べ続けられるための食事介助技術と地域連携」

講師 東名厚木病院 摂食嚥下療法部主任 看護師

芳村 直美 先生



後半の講演は、東名厚木病院の摂食嚥下療法部主任の看護師、芳村直美先生による「要介護高齢者が口から食べ続けるための食事介助技術と地域連携」と言う演題であった。

声にメリハリがあり、かつ端的で明瞭なお話しぶりに、途中退出する方が皆無、緊張した素晴らしい講義だった。最初に強調されたのは、口から食べ続けることを支援するためには3つの要件があること。それを食事介助の視点で言うならば、①どうやって食べさせるかという判断、②食べさせてあげるといふ信念、③それにどう取

り組んでいくかという姿勢である

とのことであった。食事介助のポイントを環境の整備、口腔内の清潔と食べる準備、食べやすい体位や姿勢保持、呼吸、食事内容や介助の際の一口量、食べる意欲を起こさせる工夫などの点で実例をビデオ放映しながらその都度良い点や悪い点、改善点を指摘した。

我々が忘れがちなことは、在宅などでは十分に姿勢保持ができていないこと、それを食べられる姿勢までタオルやクッションなどを組み合わせて安全な体位が獲得できることが分かった。食物

を口に運ぶ際の方向性や高さ、一口量はどれくらいか、これまでの食事介助が術者中心であったが、それを患者の目線・視線で捉えることで安心安全そして効率性が高い介助ができる。PPTでは時々動画でスプーンをどこからどうやって口まで持つていくといいのか、テーブルの位置ひじや稼働できる範囲がどこにあるか、患者は

食事に関連した援助のポイント

- ・ 安全で効果的な環境調整をする
- ・ 脳機能の活性化を図る
- ・ 口腔を清潔にして、食べる準備運動を行う
- ・ 呼吸を良好にする
- ・ 安定した姿勢・体位を工夫し保持する
- ・ 食事内容を安全で、適切なものにする
- ・ 一口量やペース配分を調整する
- ・ 摂食用具を工夫する
- ・ 自分で食べられる工夫をする
- ・ 食後の口腔や体位に留意する
- ・ 意欲を支持する

yoshimura naomi

視線をどこに向け介助者はそれによって判断するなど興味深いものであった。

全ての症例で寝たきり重度の患者さんが入院期間14日間と言う期間内に経口摂取ができるようになっていく姿を目にするの感動を覚えた。小山部長に薫銘を受けたであろう芳村先生の講演は次第にヒートアップしていった。

スライド量の多さ、資料内容の濃さはこの2人の講演者を一度きりで終わらせるにはもったいないと感じた。今後機会を作りパート2をやっていただけのお願したい。

本題である在宅へのバトンタッチではまだまだ受け入れてくれるところが少ないこと、また先日放映されたNHKの東名厚木病院で取り組んでいる口から食べさせる

という内容の番組も上映された。日本全国から食べさせた、食べられないけれど、どうしたらいいのか、どこで受診できるのかなど90件もの問い合わせがあったそうで、埼玉県からの問い合わせも30件近くあったそうだ。いかに食べることで悩んでいるのか、うかがわれるとのこと。食支援を地域でつなぐには1つの病院や施設で終わらない、つまり地域密着型のバリアフリーを進めていくことが今後の食支援継続に不可欠である。

そのためにNPO法人口から食べる幸せを守る会を立ち上げたとのこと、この支援の対象者はやはり70〜80歳代が多いそうだ。小山先生からはぜひ埼玉県でもこのような方々の希望にこたえられるような診療所を、ネットワークで参加してほしいという要望もあった。口から食べられるようにするには単なる医科歯科連携ではなく多職種が全員

参加する医療連携であってほしいとの意見もあった。なお、当日272名の参加者内訳は、歯科衛生士68名、看護師50名、歯科医師39名、管理栄養士35名、栄養士43名、言語聴覚士・作業療法士・理学療法士32名、ケアマネなど43名、医師4名、薬剤師1名だった。

埼玉県摂食・嚥下研究会会員数
288名・32団体(2013.3月末)
ホームページ <http://www.ssek.net/>

◎ 摂食・嚥下研究会会員には割引制度があります。

ISBN978-4-89590-371-4
C0047 ¥3524E

定価3,700円
本体3,524円＋税5%

※郵送料別
※定価は税別価格が基本となります。

■ DVD 全巻のわらい

本DVDの上巻は、看護師・言語聴覚士・栄養士・歯科衛生士・理学療法士・作業療法士が地域の訪問看護にて家庭や介護施設等に指導する内容を、下巻は医療と介護の包括ケアにて解決できることを集約することで、みんなでチーム医療が実現できる体制を整えるために作製されました。在宅医療での活用や施設研修にお役立てください。

■ 内容

本編：嚥下（飲み込み）障害と肺炎

○ プロローグ
○ 地域で生きること食べることを受ける意味
○ 摂食と嚥下の中核となる「嚥下」による肺炎（立位CO2動態による解説）
○ 嚥下障害を疑うサイン

詳細編：現場での解決方法

○ 食事介助方法（窒息リスク軽減・嚥下障害・認知症への対応）
○ 食事からの生活（介護食と嚥下食の調理法）
○ 食口のできない方への嚥下法（完食ケア・経管ケア・鼻カテーテル）
○ ストレスマネジメント・嚥下ケア・嚥下ケアの使い分け
○ こころのケア

制作：鎌倉会

97分 片巻1巻 COLOR MPEG2 (4:3) NTSC レンタル不可 横断可 縦断可

※DVDはPC・DVDプレーヤー・DVDレコーダーのいずれかで再生してください。
※DVDはPC・DVDプレーヤー・DVDレコーダーのいずれかで再生してください。

発売元：三輪書店 〒110-0033 東京都文京区本郷6-17-9 本館03-3811-1122 03-3811-1123

生きる口から食べること 上巻

現場で活用できる食支援ケア

— 看護・医療・介護・福祉・地域連携への対応 —

(上巻：家族・看護・介護従事者向け 97分)

監修：(社)全国在宅医療・口腔ケア連絡会
HD C/ Home Dental Care net



題への対応や啓発指導、リハビリテーションなど目的を達成するために以下のとおり事業を行います。

1 講演会の開催

(1) 第18回講演会

日 時 平成25年7月28日(日) 13時～16時

場 所 彩の国すこやかプラザ

講 師 東名厚木病院 摂食嚥下療法部 部長

口から食べる幸せを守る会 代表 小山 珠美

演 題 「早期経口摂取開始の成果とアプローチの実際」

講 師 東名厚木病院 摂食嚥下療法部主任 芳村 直美

演 題 「要介護高齢者が口から食べ続けられるための
食事介助技術と地域連携」

(2) 第8回症例検討会

日 時 平成25年11月24日(日) 13時～16時

場 所 彩の国すこやかプラザ

講 師 社会福祉法人名栗園 高齢者福祉施設やしお苑

管理栄養士 河口真里

講 師 医療法人尚寿会 大生水野クリニック院長

埼玉県摂食・嚥下研究会理事 大前由紀雄

(3) 第19回講演会

日 時 平成26年2月23日(日) 13時～16時

場 所 彩の国すこやかプラザ

講 師 選定中

2 摂食・嚥下研究会だより発行、ホームページの作成・更新。

埼玉県摂食・嚥下研究会だよりを発行(年2回)

ホームページの更新 (<http://www.ssek.net/>)

3 摂食・嚥下研究会メーリングリストの作成

4 その他

(1) 必要に応じて作業委員会、摂食・嚥下研究会だより編集委員会を開催する。

平成25年度摂食・嚥下研究会収支予算書

(収入の部)

項	本年度予算額	前年度予算額	差異
入会金収入	30,000	30,000	0
会費収入	1,410,000	1,410,000	0
事業収入	780,000	840,000	△60,000
寄付金収入	0	0	0
雑収入	0	0	0
当年度収入合計	2,220,000	2,280,000	△60,000
繰越金	905,300	576,448	328,852
収入合計	3,125,300	2,856,448	268,852

(支出の部)

項	本年度予算額	前年度予算額	差異
事業費	3,025,300	2,756,448	268,852
1.理事会・総会費	(321,600)	(312,400)	(9,200)
2.講演会費	(1,950,000)	(1,725,000)	(225,000)
3.広報費	(753,700)	(719,048)	(34,652)
予備費	100,000	100,000	0
当年度支出合計	3,125,300	2,856,448	268,852

埼玉県摂食・嚥下研究会役員名簿

(平成25年7月28日現在)

役 職	氏 名	役 職
会 長	金 井 忠男	埼玉県医師会長
副会長	島 田 篤	埼玉県歯科医師会長
副会長	三 浦 宜彦	埼玉県立大学長
副会長	内 山 宣世	埼玉県薬剤師会長
専務理事	大 渡 廣信	埼玉県歯科医師会地域保健部部員
理 事 (総務・会計)	深 井 穂博	埼玉県歯科医師会常務理事・地域保健部長
理 事 (広報)	藤 野 悦男	埼玉県歯科医師会地域保健部副部長
理 事	湯 澤 俊	埼玉県医師会介護保険・在宅医療等推進委員会委員長、大宮医師会長
理 事	小 川 郁男	埼玉県医師会介護保険・在宅医療等推進委員会副委員長、坂戸鶴ヶ島医師会長
理 事	嶋 津 裕	埼玉県内科医会副会長
理 事	棚 橋 紀夫	埼玉医科大学神経内科教授
理 事	安 井 利一	明海大学学長
理 事	清 水 良昭	明海大学歯学部社会健康科学講座障害者歯科准教授
理 事	鯉 渕 肇	埼玉県薬剤師会副会長
理 事	膳 亀 昭三	埼玉県薬剤師会常務理事
理 事	高 久 悟	埼玉県立大学健康開発科教授
理 事	熊 木 孝子	埼玉県看護協会长
理 事	中 島 悦子	埼玉県訪問看護ステーション連絡協議会長
理 事	丸 山 恵子	埼玉県歯科衛生士会長
理 事	野 呂 牧人	埼玉県介護支援専門員協合理事長
理 事	清 水 充子	埼玉県言語聴覚士会長、埼玉県総合リハビリテーションセンター言語聴覚科長
理 事	内 田 淳	嵐山郷医療部医幹
理 事	奥 村 元彦	埼玉県歯科医師会会員
理 事	中 里 義博	埼玉県歯科医師会会員
理 事	大前由紀雄	大生水野クリニック院長
理 事	松 本 吉郎	埼玉県医師会常任理事
理 事	平 野 孝則	埼玉県栄養士会長
理 事	望 月 久	埼玉県理学療法士会副会長
理 事	大 橋 幸子	作業療法士階理事・事務局長
理 事	出 浦 恵子	埼玉県歯科医師会地域保健部部員
監 事	丸 木 雄一	埼玉県医師会理事、埼玉県医師会介護保険・在宅医療等推進委員会副委員長
監 事	岩 上 榮吉	埼玉県歯科医師会専務理事

平成25年度 埼玉県摂食・嚥下研究会 第9回 総会報告

◆第1号議案 役員の選任に関する件

役員の選任に関する件の提案理由の説明が行われ、挙手多数によって役員全員を全て承認した。

◆第2号議案 平成24年度事業の承認に関する件

1. 会員数：正 会 員 288名
賛助会員 32団体 (60口)
2. 理事会及び総会
平成24年6月17日 (日) 彩の国すこやかプラザ
3. 講演会及び症例検討会
(1) 第15回 講演会
日 時：平成24年6月17日 (日) 13時～16時
場 所：彩の国すこやかプラザ2階セミナーホール
参加者：203名 (正会員71名・賛助会員42名・非会員90名)
講 師：新潟リハビリテーション大学大学院
リハビリテーション研究科 倉智 雅子
演 題：摂食・嚥下障害における職種間の連携
－STの立場から－

パネルディスカッション：

司会：埼玉県摂食・嚥下研究会理事
大生病院 耳鼻咽喉科科長
大前由紀雄 (医師)

- 講師 (1) 埼玉県摂食・嚥下研究会理事
中里歯科医院 院長 中里義博 (歯科医師)
- 〃 (2) 埼玉県リハビリテーションセンター
言語聴覚科長 清水充子 (言語聴覚士)
- 〃 (3) 埼玉県立がんセンター看護科
橋本裕子 (摂食・嚥下障害看護認定看護師)
- 〃 (4) 国立障害者リハビリテーションセン
ター病院 耳鼻咽喉科 鈴木康司 (医師)

(2) 第16回 講演会

- 日 時：平成24年10月14日 (日) 13時～16時
場 所：彩の国すこやかプラザ2階セミナーホール
参加者：180名 (正会員78名・賛助会員40名・非会員62名)
- ①講師 あおぞら診療所上本郷 歯科衛生士 山口朱見
演題 医科歯科連携から訪問口腔ケアへ
- ②講師 医療法人尚寿会 大生病院耳鼻咽喉科 科長
埼玉県摂食・嚥下研究会理事 大前由紀雄
演題 嚥下障害を抱える症例への対応－口腔から
気管の吸引と気管切開の管理を知ろう－

(3) 第17回 講演会

- 日 時：平成25年2月17日 (日) 13時～16時
場 所：彩の国すこやかプラザ2階セミナーホール
参加者：241名 (正会員86名・賛助会員61名・非会員94名)
- ①講師 独立行政法人 国立国際医療研究センター
リハビリテーション科 医長 藤谷順子
演題 誤嚥性肺炎の予防と嚥下のリハビリテーション

- ②講師 医療法人 真正会 霞ヶ関南病院言語聴覚課
課長 鈴木 智子
演題 多職種協働口腔リハへの挑戦

4. その他

- (1) 監査：日時 平成24年5月10日 (木)
場所 埼玉県医師会
- (2) 作業委員会 ①日時 平成24年4月26日 (木)
場所 彩の国すこやかプラザ
②日時 平成24年9月6日 (木)
場所 彩の国すこやかプラザ

5 摂食・嚥下研究会だより、ホームページの作成・更新を実施した。

- (1) 埼玉県摂食・嚥下研究会だよりを発行 (年3回)
- (2) ホームページの作成・更新
(<http://www.ssek.net/>)
- (3) 埼玉県摂食・嚥下だより編集委員会を開催する。
日時 平成24年12月20日 (木)
場所 彩の国すこやかプラザ

◆第3号議案 平成24年度決算の承認に関する件

【提案理由】平成24年度決算の承認に関する件について、会則第12条第2号の規定に基づき提案いたします。

平成24年度摂食・嚥下研究会収支決算書

(収入の部)

項	本年度予算額	本年度決算額	差異
入会金収入	30,000	45,000	△15,000
会費収入	1,410,000	1,464,000	△54,000
事業収入	840,000	893,000	△53,000
寄付金収入	0	0	0
雑収入	0	106	106
当年度収入合計	2,280,000	2,402,106	△122,106
繰越金	576,448	576,448	0
収入合計	2,856,448	2,978,554	△122,106

(支出の部)

項	本年度予算額	本年度決算額	差異
事業費	2,756,448	2,073,254	683,194
1.理事会・総会費	(312,400)	(178,897)	(133,503)
2.講演会費	(1,725,000)	(1,194,460)	(530,540)
3.広報費	(719,048)	(699,897)	(19,151)
予備費	100,000	0	100,000
当年度支出合計	2,856,448	2,073,254	783,194
次期繰越収支差額		905,300	

◆第4号議案 平成25年度事業計画の承認に関する件

【提案理由】平成25年度事業計画の承認に関する件について、会則第12条第2号の規定に基づき提案いたします。

本格的な高齢社会を迎え、高齢者が最期まで元気で、健康な生活を送れることが切実な課題となっています。「食べる」ことに障害を持つ高齢者や障害児 (者) が大勢いるにもかかわらず、その取組みが遅れています。

埼玉県摂食・嚥下研究会は、摂食・嚥下障害の諸問

埼玉県摂食・嚥下研究会

第8回 症例検討会

日時：平成25年 **11月24日**（日）13:00～16:00

場所：彩の国すこやかプラザ 2階セミナーホール

講演

演題：「食えること」を支える、施設での取り組み
～やしお苑の食事ケアと排泄ケアについて～

講師：社会福祉法人名栗園 高齢者福祉施設やしお苑

管理栄養士 **河口 真里** 先生

◎質疑応答

■定員：250名

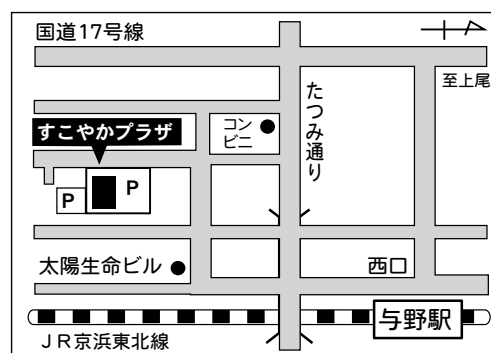
※参加者多数の場合はご連絡いたします。

※改めて参加証はお送りいたしません。

■参加費：会 員/ 無 料

非会員/ 2,000円（資料作成代等）

■申込締切日：11月14日（木）



主催：埼玉県摂食・嚥下研究会

問合せ：埼玉県歯科医師会事務局 TEL 048-829-2323

参加申込書 埼玉県摂食・嚥下研究会（会員・非会員）※どちらかに○を付けてください

フリガナ		職 種	
氏 名			
住 所 (勤務先)	〒 -	電 話	
		F A X	

申込書 FAX先 **048-829-2376**